

ポスト京都プロトコールのフレームワーク作りにおける中期目標に関する調査研究

(報告書の概要)

ポスト京都プロトコールにおいては、途上国の積極的参加は急務であり、中でも急速な経済成長を続ける中国及びインドは世界最大級の温暖化ガス排出国であり両国における排出削減対策の実施が重要になっている。中国に関しては様々な排出削減対策に関する知見の充実が図られてきている一方、2050年には人口世界一と予測されているインドに関する知見は十分とは言い難い。

本調査の趣旨は、日本が有する環境技術をインドで展開することにより同国における経済発展と持続可能な開発・環境保全を両立させるための手法の研究であり、主に(1)日印間で技術協力が可能な分野、及び手法の特定、(2)既存技術に代わる新たな技術の環境性能の評価とコスト等の阻害要因の評価とその解決策の検討、(3)技術協力を促進するメカニズムの研究(技術移転・適用や財政支援措置、共同研究を含む)を行う。

(報告書の主要構成)

- (1) はじめに
 - (2) 日本とインド両国の経済比較(概観)
 - (3) インドにおけるエネルギー多消費産業への日本の技術移転の可能性
 - (4) 技術移転の課題・障壁
 - (5) まとめ(技術移転のためのロードマップづくりに向けて)
- 巻末資料 (先進事例、対象技術または製品の性能評価)